

6) 手術後、頻繁に通院しなければならない

「手術後、頻繁に通院しなければならない」回答者の割合は、以下のとおりである。

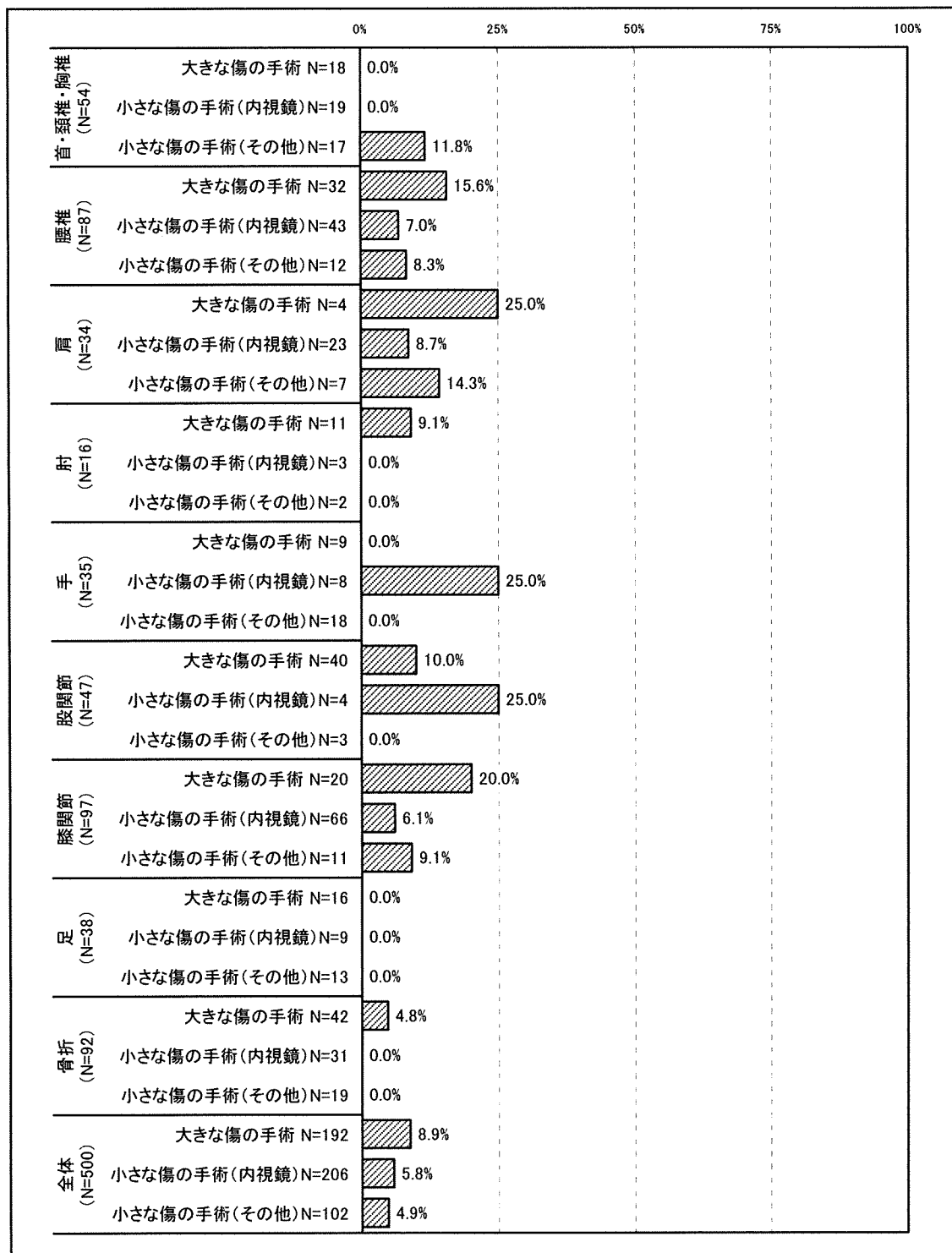


図3.3-14 手術後、頻繁に通院しなければならない

表3.3-31 手術後、頻繁に通院しなければならない

疾患部位	手術・処置の種類	手術後、 頻繁に通院しなければならない	
		件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 (N=18)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=19)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=17)	2	11.8%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 (N=32)	5	15.6%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=43)	3	7.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=12)	1	8.3%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 (N=4)	1	25.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=23)	2	8.7%
	小さな傷の手術 (その他) (N=7)	1	14.3%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 (N=11)	1	9.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=3)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=2)	0	0.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=8)	2	25.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=18)	0	0.0%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 (N=40)	4	10.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=4)	1	25.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=3)	0	0.0%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 (N=20)	4	20.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=66)	4	6.1%
	小さな傷の手術 (その他) (N=11)	1	9.1%
足 (N=38)	大きな傷の手術 (N=16)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=13)	0	0.0%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 (N=42)	2	4.8%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=31)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=19)	0	0.0%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 (N=192)	17	8.9%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=206)	12	5.8%
	小さな傷の手術 (その他) (N=102)	5	4.9%

7) 手術後、再発した

「手術後、再発した」回答者の割合は、以下のとおりである。

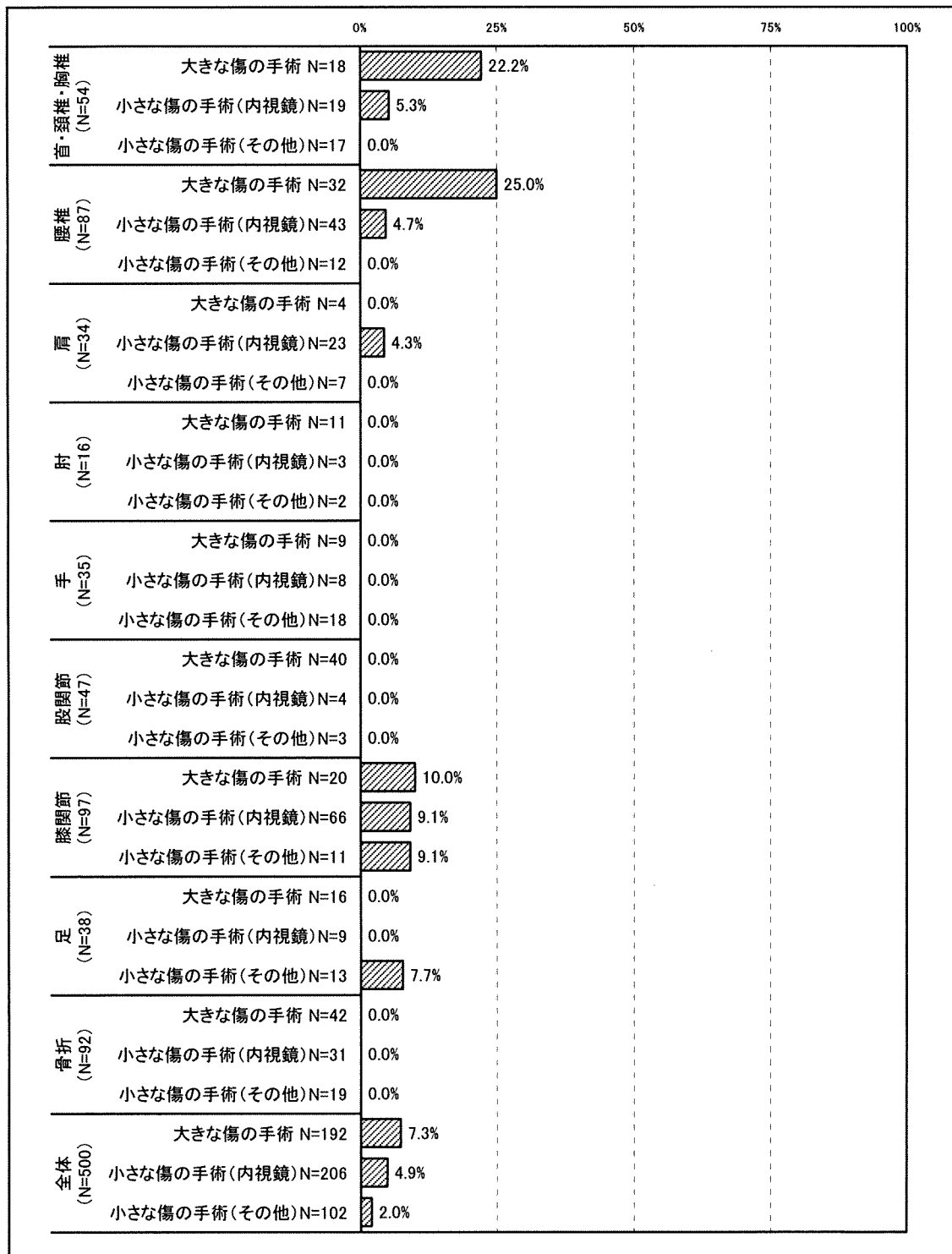


図3.3-15 手術後、再発した

表3.3-32 手術後、再発した

疾患部位	手術・処置の種類	手術後、再発した	
		件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 (N=18)	4	22.2%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=19)	1	5.3%
	小さな傷の手術 (その他) (N=17)	0	0.0%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 (N=32)	8	25.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=43)	2	4.7%
	小さな傷の手術 (その他) (N=12)	0	0.0%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=23)	1	4.3%
	小さな傷の手術 (その他) (N=7)	0	0.0%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 (N=11)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=3)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=2)	0	0.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=8)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=18)	0	0.0%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 (N=40)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=3)	0	0.0%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 (N=20)	2	10.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=66)	6	9.1%
	小さな傷の手術 (その他) (N=11)	1	9.1%
足 (N=38)	大きな傷の手術 (N=16)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=13)	1	7.7%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 (N=42)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=31)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=19)	0	0.0%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 (N=192)	14	7.3%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=206)	10	4.9%
	小さな傷の手術 (その他) (N=102)	2	2.0%

8) 埋め込んだ機器のメンテナンスのために再手術・処置を受けなければならない

「手術後、埋め込んだ機器のメンテナンスのために再手術・処置を受けなければならない」回答者の割合は、以下のとおりである。

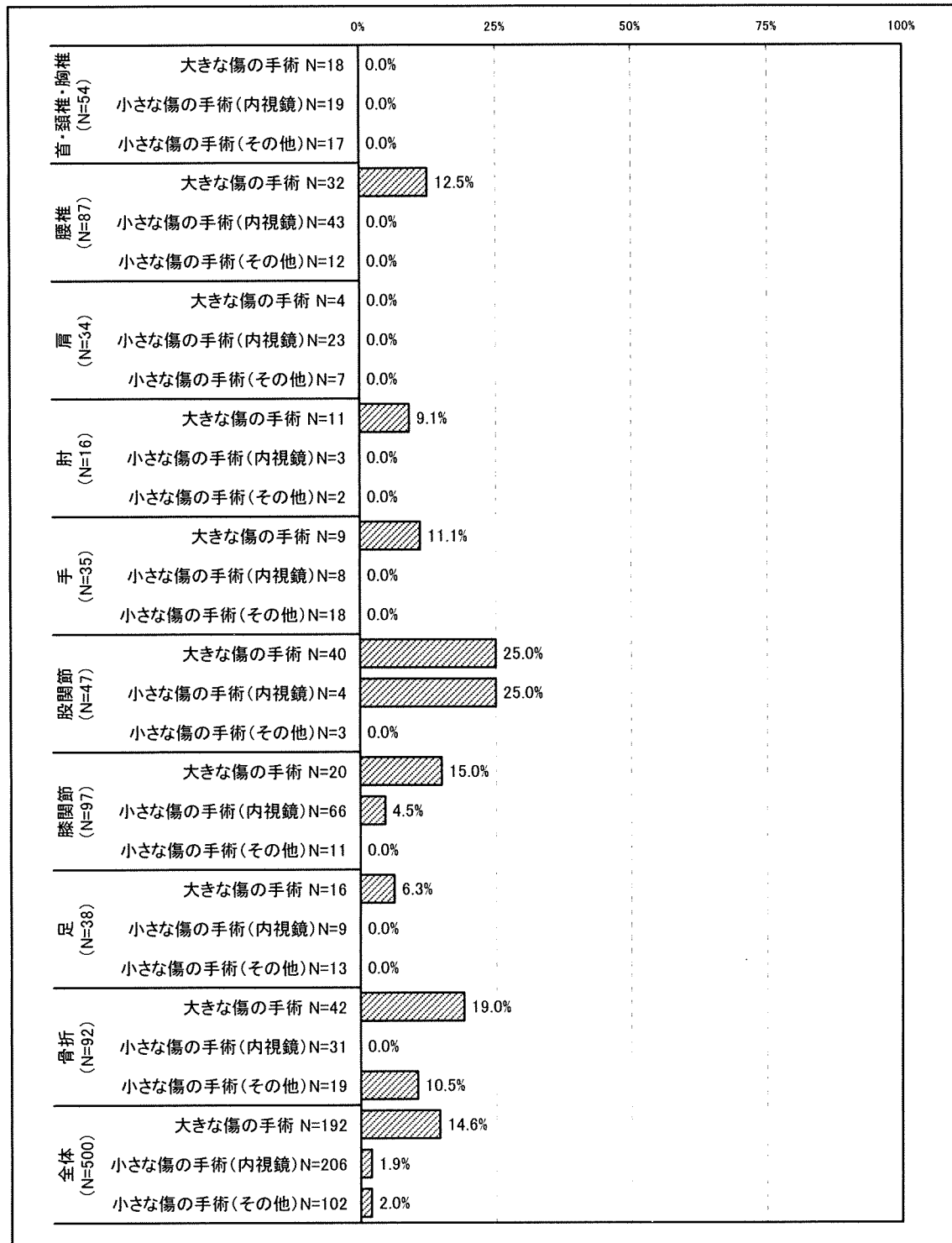


図3.3-16 埋め込んだ機器のメンテナンスのために再手術・処置を受けなければならない

表3.3-33 埋め込んだ機器のメンテナンスのために再手術・処置を受けなければならない

疾患部位	手術・処置の種類	手術後、埋め込んだ機器のメンテナンスのために再手術・処置を受けなければならない	
		件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 (N=18)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=19)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=17)	0	0.0%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 (N=32)	4	12.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=43)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=12)	0	0.0%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=23)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=7)	0	0.0%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 (N=11)	1	9.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=3)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=2)	0	0.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 (N=9)	1	11.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=8)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=18)	0	0.0%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 (N=40)	10	25.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=4)	1	25.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=3)	0	0.0%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 (N=20)	3	15.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=66)	3	4.5%
	小さな傷の手術 (その他) (N=11)	0	0.0%
足 (N=38)	大きな傷の手術 (N=16)	1	6.3%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=13)	0	0.0%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 (N=42)	8	19.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=31)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=19)	2	10.5%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 (N=192)	28	14.6%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=206)	4	1.9%
	小さな傷の手術 (その他) (N=102)	2	2.0%

9) 手術後の通院費などが想定していたよりも高かった

「手術後の通院費などが想定していたよりも高かった」回答者の割合は、以下のとおりである。

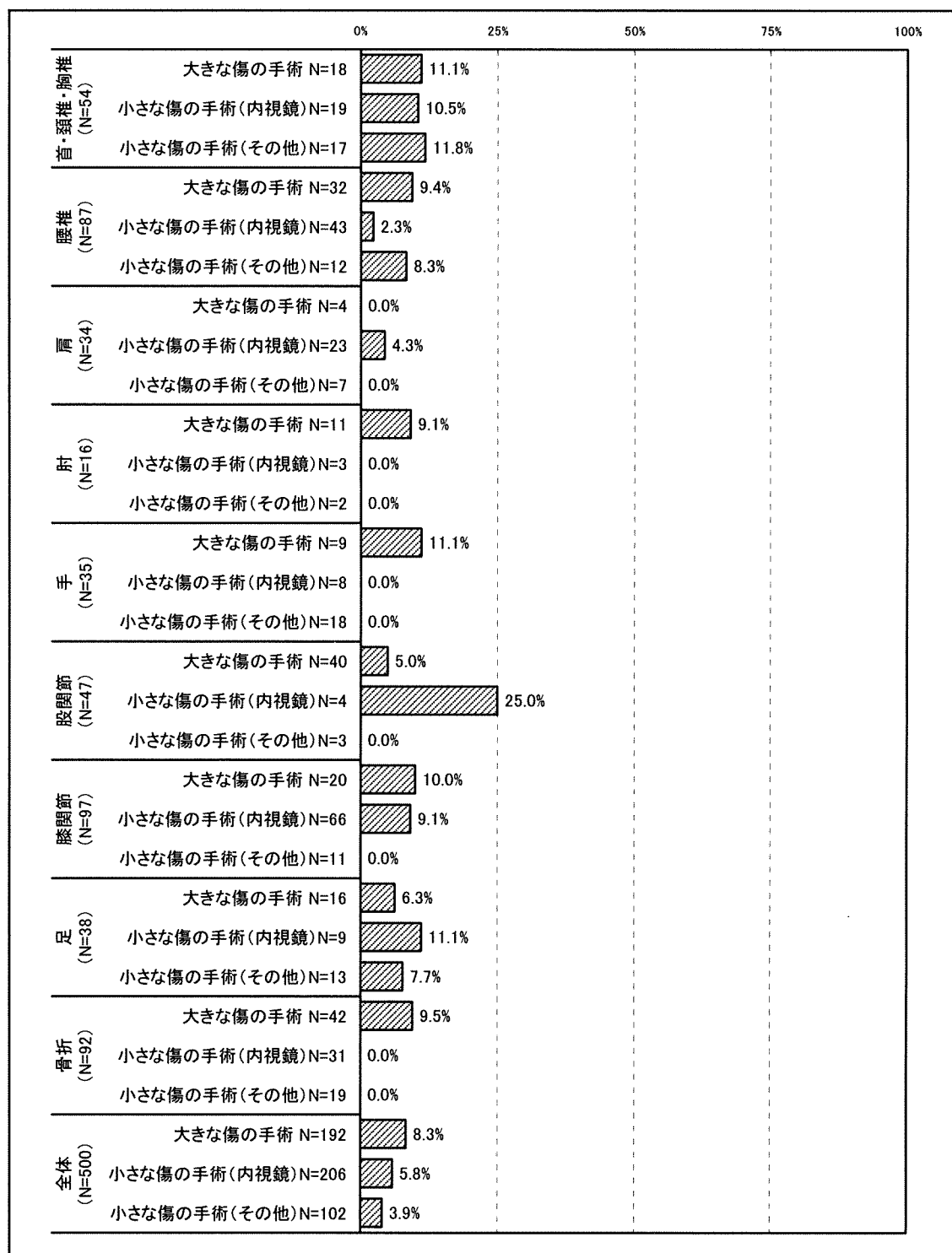


図3.3-17 手術後の通院費などが想定していたよりも高かった

表3.3-34 手術後の通院費などが想定していたよりも高かった

疾患部位	手術・処置の種類	手術後の通院費などが想定していたよりも高かった	
		件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 (N=18)	2	11.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=19)	2	10.5%
	小さな傷の手術 (その他) (N=17)	2	11.8%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 (N=32)	3	9.4%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=43)	1	2.3%
	小さな傷の手術 (その他) (N=12)	1	8.3%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=23)	1	4.3%
	小さな傷の手術 (その他) (N=7)	0	0.0%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 (N=11)	1	9.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=3)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=2)	0	0.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 (N=9)	1	11.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=8)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=18)	0	0.0%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 (N=40)	2	5.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=4)	1	25.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=3)	0	0.0%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 (N=20)	2	10.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=66)	6	9.1%
	小さな傷の手術 (その他) (N=11)	0	0.0%
足 (N=38)	大きな傷の手術 (N=16)	1	6.3%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=9)	1	11.1%
	小さな傷の手術 (その他) (N=13)	1	7.7%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 (N=42)	4	9.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=31)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=19)	0	0.0%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 (N=192)	16	8.3%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=206)	12	5.8%
	小さな傷の手術 (その他) (N=102)	4	3.9%

10) 吐き気や疲労感などの不快感があった

「手術時とその後に、吐き気や疲労感などの不快感があった」回答者の割合は、以下のとおりである。

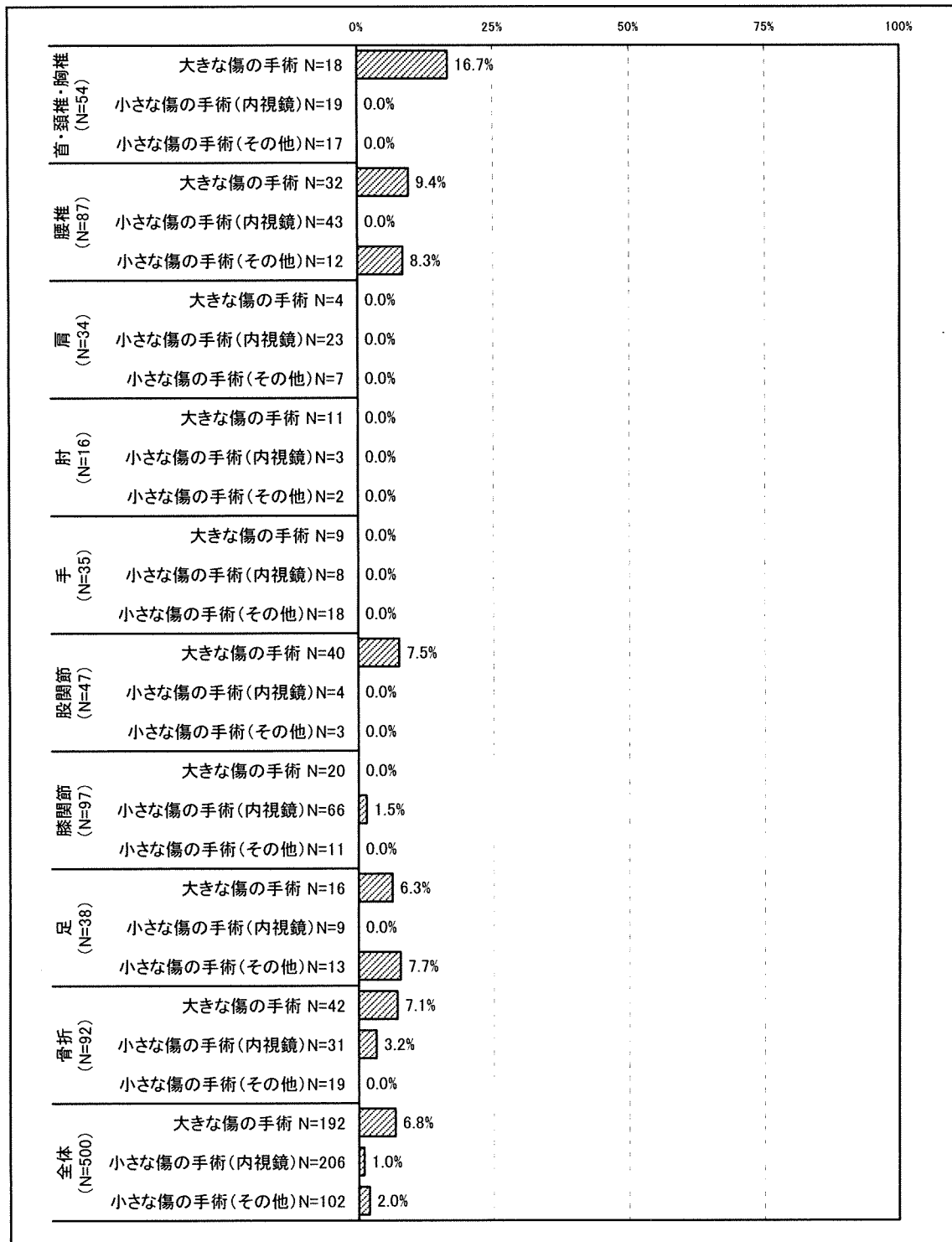


図3.3-18 吐き気や疲労感などの不快感があった

表3. 3-35 吐き気や疲労感などの不快感があった

疾患部位	手術・処置の種類	手術時とその後に、吐き気や疲労感などの不快感があった	
		件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 (N=18)	3	16.7%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=19)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=17)	0	0.0%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 (N=32)	3	9.4%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=43)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=12)	1	8.3%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=23)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=7)	0	0.0%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 (N=11)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=3)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=2)	0	0.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=8)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=18)	0	0.0%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 (N=40)	3	7.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=3)	0	0.0%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 (N=20)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=66)	1	1.5%
	小さな傷の手術 (その他) (N=11)	0	0.0%
足 (N=38)	大きな傷の手術 (N=16)	1	6.3%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=13)	1	7.7%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 (N=42)	3	7.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=31)	1	3.2%
	小さな傷の手術 (その他) (N=19)	0	0.0%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 (N=192)	13	6.8%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=206)	2	1.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=102)	2	2.0%

11) 手術前の説明が不十分だった

「手術前の説明が不十分だった」回答者の割合は、以下のとおりである。

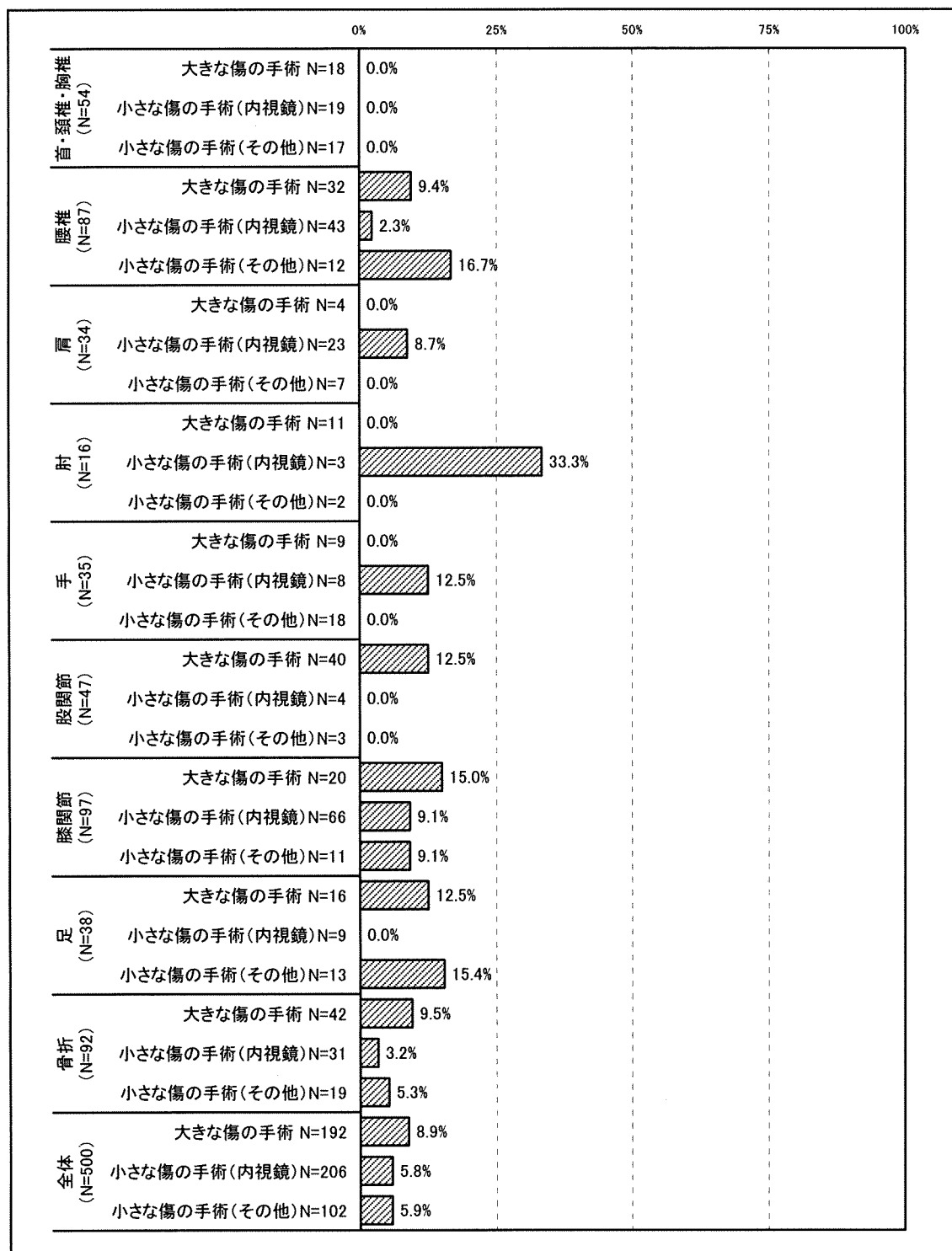


図3. 3-19 手術前の説明が不十分だった

表3.3-36 手術前の説明が不十分だった

疾患部位	手術・処置の種類	手術前の説明が不十分だった	
		件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 (N=18)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=19)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=17)	0	0.0%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 (N=32)	3	9.4%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=43)	1	2.3%
	小さな傷の手術 (その他) (N=12)	2	16.7%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=23)	2	8.7%
	小さな傷の手術 (その他) (N=7)	0	0.0%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 (N=11)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=3)	1	33.3%
	小さな傷の手術 (その他) (N=2)	0	0.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=8)	1	12.5%
	小さな傷の手術 (その他) (N=18)	0	0.0%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 (N=40)	5	12.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=3)	0	0.0%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 (N=20)	3	15.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=66)	6	9.1%
	小さな傷の手術 (その他) (N=11)	1	9.1%
足 (N=38)	大きな傷の手術 (N=16)	2	12.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=13)	2	15.4%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 (N=42)	4	9.5%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=31)	1	3.2%
	小さな傷の手術 (その他) (N=19)	1	5.3%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 (N=192)	17	8.9%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=206)	12	5.8%
	小さな傷の手術 (その他) (N=102)	6	5.9%

12) その他の不安・不快を感じた

「その他の不安・不快を感じた」回答者の割合は、以下のとおりである。

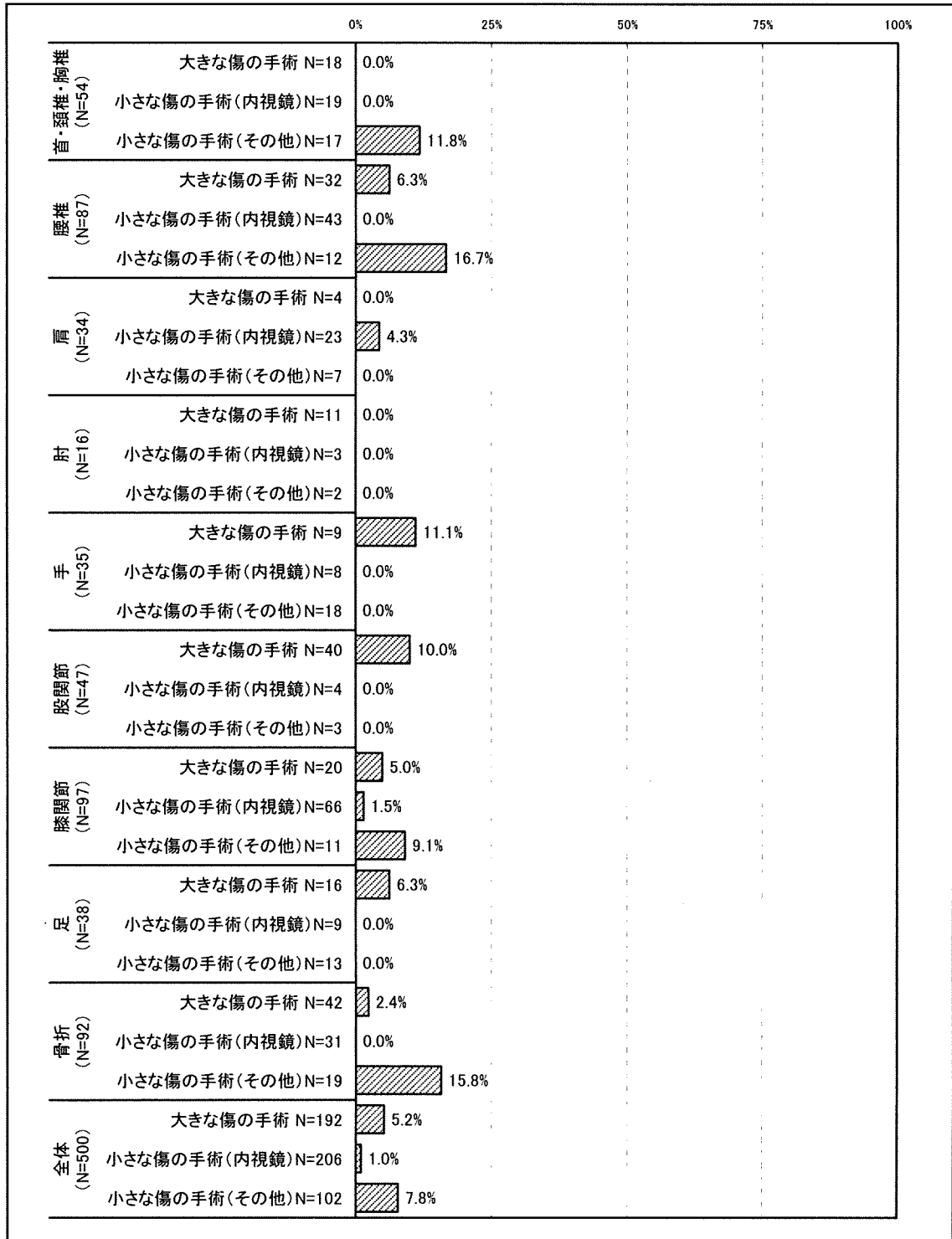


図3.3-20 その他の不安・不快を感じた

表3.3-37 その他の不安・不快を感じた

疾患部位	手術・処置の種類	その他の不安・不快を感じた	
		件数	割合
首・頸椎・胸椎 (N=54)	大きな傷の手術 (N=18)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=19)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=17)	2	11.8%
腰 椎 (N=87)	大きな傷の手術 (N=32)	2	6.3%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=43)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=12)	2	16.7%
肩 (N=34)	大きな傷の手術 (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=23)	1	4.3%
	小さな傷の手術 (その他) (N=7)	0	0.0%
肘 (N=16)	大きな傷の手術 (N=11)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=3)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=2)	0	0.0%
手 (N=35)	大きな傷の手術 (N=9)	1	11.1%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=8)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=18)	0	0.0%
股関節 (N=47)	大きな傷の手術 (N=40)	4	10.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=4)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=3)	0	0.0%
膝関節 (N=97)	大きな傷の手術 (N=20)	1	5.0%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=66)	1	1.5%
	小さな傷の手術 (その他) (N=11)	1	9.1%
足 (N=38)	大きな傷の手術 (N=16)	1	6.3%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=9)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=13)	0	0.0%
骨 折 (N=92)	大きな傷の手術 (N=42)	1	2.4%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=31)	0	0.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=19)	3	15.8%
全 体 (N=500)	大きな傷の手術 (N=192)	10	5.2%
	小さな傷の手術 (内視鏡) (N=206)	2	1.0%
	小さな傷の手術 (その他) (N=102)	8	7.8%

表3.3-38 その他の不安・不快（手術・処置時）

区 分		コメント
首・頸椎・胸椎	小さな傷の手術 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 痛みを訴えても、治療法を見つけてもらえない(50 歳代女性) ・ 変化なし(50 歳代男性)
腰 椎	大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ けいれんが起こる(40 歳代男性) ・ 後遺障害の発生(60 歳代男性)
	小さな傷の手術 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかなか治らない(50 歳代女性) ・ 医師が研修医で最悪だった(30 歳代女性)
肩	小さな傷の手術 (内視鏡)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常に近い状態に戻るのにかなり時間を要した(60 歳代女性)
肘		—
手	大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完治するだろうかと…(20 歳代女性)
股関節	大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師のレベルが低かった(30 歳代女性) ・ 手術して直ったわけではなくこれからどうもたせるか(50 歳代女性) ・ 術後のベッド上での長時間安静(50 歳代女性) ・ 入院してから手術医が診断の医師と違うと言われた(30 歳代女性)
膝関節	大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手術後に違う症状が進行した(40 歳代男性)
	小さな傷の手術 (内視鏡)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガーゼ等を押さえるためのテープでかぶれてしまった(40 歳代女性)
	小さな傷の手術 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通に歩けるようになるか不安だった(60 歳代女性)
足	大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔が効いていなかった(60 歳代女性)
骨 折	大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二度目の手術の時に麻酔が効き難くて意識が有るのにそうかんされた(50 歳代男性)
	小さな傷の手術 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ギブスが不便だった(50 歳代女性) ・ 一切のリハビリが無かった(60 歳代男性) ・ 松葉杖が必要となった(60 歳代男性)

(4) 手術・処置時の不安・不快に関するコメント

1) 首・頸椎・胸椎

首・頸椎・胸椎の病気やケガにかかった患者が手術・処置時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-39 手術・処置時の不安・不快に関するコメント（首・頸椎・胸椎）

区分	コメント
大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> MRなどの諸検査で異常はないと言われますが、手術後、同じ場所に針を刺すような痛みが残ります(60歳代女性) 1986年7月手術だったので、当時としてはよほどの腕が無いとできない手術だった。前方固定術だったが、術後ギブスベッドで2ヶ月近く上向き。6年後くらいに固定した上下に負担が来て再発するといわれたが、そのとおりになった。手術は完璧・切開したあとも分らない縫合。現在は自宅で牽引。胸椎・腰椎にもヘルニア発症で頸椎、胸椎、腰椎治療中。保存療法が流行っているが、神経根症に対しては手術を行わない方針が流行。診断も出来ない医師が多くなった。右手に力が入らず、左足は緊張したままで歩行困難。医師に手術方法教えても嫌がる。それでいて治療費を取られる。不愉快なのでセカンドオピオットもらってひどい医者だった。側弯症には違いないが、側弯症は治らないと断言したので自分は何人側弯症を2週間以内で完治させてきたことを告げたら、もう来るなどいわれた！薬も自分で選んでいる(50歳代男性) 1ヶ月も寝たまままでうけなくて気が狂いそうだった(50歳代女性) 完璧に回復していないが、そんなものと諦めている(60歳代男性) 左両足手がしびれている(60歳代男性) 思ったほど症状が軽減しなかった(鈍痛、だるさ、痙攣、頭痛など)(40歳代男性) 手術をしてくれた医師はとてもよくやってくれた。術後のリハビリが3か月以内ということで制限されたため、しっかりできなかったこと(60歳代男性) 手術後も手の痺れが治まらず、また、一度は治まった首の痛みが時々再発すること(40歳代男性) 症状が出ていなかったが、予防的措置のための手術だったので、思っていた以上の後遺症があったので不快に思うこともある(50歳代女性) 全身の自由が利かなくなつたため、食事が出来なかった(50歳代男性) 薬や金属、ラテックスなどに対するアレルギーがあるので、それでおかしなことになるかと不安だった。また、傷が2カ所(術部と骨盤採取部)に残ることになるので、傷がどの程度残るか不安だった。術後はおしこのくたをテープでとめていたところがあとになってしまったり、反回神経麻痺になって声が出ない、誤嚥がときどき2年たってもでるので困っている(30歳代女性) 痺れが手術後軽快したが、半年後突然手指が痺れ始め、その後少しづつ悪化している(60歳代女性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	<ul style="list-style-type: none"> あまりよくなる(60歳代女性) 頸椎にメスを入れることへの恐怖感(50歳代男性) 支障の除外の回復(60歳代男性) 自由がきかなくなった(50歳代女性) 症状が軽くなるが、結局は指のしびれ、痛み、生活の制限は変わらず、日常生活に影響しています(40歳代女性) 通常の倍時間がかかった(30歳代男性) 万一後遺症が残ったらということ(40歳代男性)
小さな傷の手術 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> 一時的に痛みは弱まったが、すぐにぶり返してしまい、根本的に治さなければならないと思った(50歳代男性) 若干の改善は見られたものの、完治しておらず、通院が必要で費用がかかること(20歳代男性) 術後1年もたつのに、検査のために刺された針のあとが痛むのを訴えても、時間が経てば治る、と言われてごまかされている感じ。痛みは見えないし、先生の言葉が信じられなくなる(50歳代女性) 神経に直接麻酔を注入するということでカテーテル挿入手術を受けたが、挿入している間の2週間ほどボトルを身につけていなければならないなど不自由な状態が続いた。そこまでの痛みが改善するどころかひどくなって絶望的な気持ちになった(40歳代女性) 脊髄近くを触るため不安があった(30歳代男性) 当初にかかった医師には、レントゲンで確認できないために見放された(20歳代男性) 老化現象なのかと半分あきらめている(50歳代男性)

2) 腰椎

腰椎の病気やケガにかかった患者が手術・処置時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-40 手術・処置時の不安・不快に関するコメント（腰椎）

区分	コメント
大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・「手術をしても100%回復することは難しい。」と医師より言われていたが、足の指にけいれんが起こるようになった(40歳代男性) ・すぐ治ると言われたが治らなかった(20歳代男性) ・なかなか足のしびれが取れない(腰椎すべり症)(60歳代女性) ・一生つきあっていかなければいけない(20歳代男性) ・検査をしてみないと答えが出せない症状もあるが、多くの手術をしていれば多額の金をかけて検査しなくても判断できることがある(60歳代男性) ・腰椎椎間板ヘルニアそのものが、また生じたり、手術以降、坐骨神経痛やしびれが頻発するようになったり、といったこと(50歳代男性) ・再発の恐れがあった事(30歳代男性) ・思ったより回復しない(30歳代女性) ・思っていたほど原状回復がなされず、隣接する部位が再発した(60歳代男性) ・手術後、すぐに痛みがとれなくて不安だった(40歳代男性) ・手術後も痛みが残りあまり症状が改善されなかった(20歳代女性) ・手術後頭痛がしたが、看護婦に話してもほっとかれ後で麻酔時に首の圧迫によるものだった。手術時にはじめにやる予定だった手術の半分しかできず結果すぐ再発し、やり直した(20歳代男性) ・術後、痛みは軽減されたものの、完治したわけではなく、麻痺はあまり変わらない(50歳代男性) ・術後の通院の回数が思っていたよりも多くて大変です(30歳代男性) ・将来の不安(20歳代男性) ・脊髄の手術による神経系統の損傷で後遺障害が発生する可能性(60歳代男性) ・続く痛み(50歳代男性) ・椎間板ヘルニアの術後、隣接する部位が再発し現在治療中(60歳代男性) ・椎間板ヘルニア手術に固定用として使用されたビスと神経との接触(60歳代男性) ・痛みがある(50歳代女性) ・病院やスタッフの方の対応はよかったので、そういった面での不安・不快はないが、現在も病気を患っていることが不快(20歳代女性) ・慢性疼痛が残存した。自立神経障害がでてきた(20歳代男性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	<ul style="list-style-type: none"> ・いまだに痛みがあり、ずっと付き合っていかなければならないこと(20歳代女性) ・なおりませんね(50歳代男性) ・なかなか社会復帰できない(40歳代女性) ・ほぼ完治と言える位に直って欲しい気持ちでいっぱいだった。直らなければどうしよう？などの手術後の不安は強かった(50歳代男性) ・何をされているのかわからず不安(30歳代女性) ・回復しなかった(60歳代男性) ・効果があるか否か事前に検査してもらいたかった(20歳代男性) ・再発(40歳代男性) ・時間がかかった(60歳代男性) ・術後がとてつもない痛みがあって苦痛だった(40歳代女性) ・術後において回復するまでの日数を教えてもらえなかった(60歳代男性) ・傷跡が気になる(30歳代女性) ・大きな障害が残らないのかという不安(40歳代女性) ・痛かった(40歳代女性) ・慢性的に痛むので痛みがとれるのか不安(30歳代男性)
小さな傷の手術 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・このまま半身不随になるのではないかと不安で仕方がなかったけど、不安をとりのぞいてくれるような説明はなかった(30歳代女性) ・とにかくMRIの検査に恐怖感が残ってしまった。もう二度と受けたくない。電気マッサージの施術後にかえって症状が悪化したりすることもあったり、結局効き目が感じられないことも多く、現在ケガ(病気)は放っている(20歳代女性) ・まだすっきりしない(30歳代男性) ・医師が研修医で何もかも最悪だった(30歳代女性) ・結局完治というより、リハビリによる対応となり、痛みが引くことがなかったこと(30歳代男性) ・痛みがいつまで続くのか不安(50歳代女性)

3) 肩

肩の病気やケガにかかった患者が手術・処置時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-41 手術・処置時の不安・不快に関するコメント（肩）

区分	コメント
大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完全には治らないこと(50 歳代男性) ・ 救急診療だったせいか、電話で上司と思しき医師に相談しながらの処置をされて不安だった。その後、その上司らしき医師が来て続きの処置をされたが酒気を帯びているように見られ更に不安になった(30 歳代男性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思ったより良くならなかった(40 歳代女性) ・ 治り具合がよくない(20 歳代男性) ・ 若干、痛みが残っている(20 歳代男性) ・ 術後1ヶ月間、大きな装具を装着したことや、リハビリに通ったこと、痛みは取れたものの通常に戻るのに時間を要したことなど(60 歳代女性) ・ 初めてのことだったので(20 歳代男性) ・ 傷跡と仕事復帰(30 歳代女性) ・ 詳細な説明がなかった(30 歳代男性) ・ 説明が良く分からなかった(50 歳代男性) ・ 痛み(50 歳代男性) ・ 痛みが激しくて眠れない。痛み止めと、睡眠導入剤が毎日必要(50 歳代男性) ・ 痛みが残っている(50 歳代男性)
小さな傷の手術 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間の空いたときに来てくださいといわれ、いつ完治するのか、いつ通院をやめていいのかから困った(20 歳代女性) ・ 症状が改善されなかった(60 歳代男性)

4) 肘

肘の病気やケガにかかった患者が手術・処置時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-42 手術・処置時の不安・不快に関するコメント（肘）

区分	コメント
大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかなか直らないので不安に感じた(20 歳代男性) ・ 右肘が元通りに曲がらなくなってしまった。リハビリの医師のおかげで9割は元に戻ったが、当時は非常に不安だった(50 歳代男性) ・ 見た目(20 歳代男性) ・ 手術後、すぐには症状は改善しなかった。それ故に本当にコレが正解だったのかという不安が残った(40 歳代男性) ・ 術後の関節可動域の制限の残存(30 歳代男性) ・ 傷跡(30 歳代男性) ・ 同じ所にメスを入れたので、皮膚自体が弱くなってしまわないか不安だった(30 歳代男性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師が説明不足(50 歳代男性)
小さな傷の手術 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本当に治るのか心配している(50 歳代男性)

5) 手

手の病気やケガにかかった患者が手術・処置時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-43 手術・処置時の不安・不快に関するコメント（手）

区 分	コメント
大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完治するだろうかと不安ばかりだった(20歳代女性) ・ 最近また左手にかすかな痛みが時々出るようになった(60歳代男性) ・ 傷が目立つ(30歳代男性) ・ 傷跡がだいぶ薄れたが、目立つ気がする(気になる)(50歳代女性) ・ 目に見える糸が複数残っている(30歳代女性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	<ul style="list-style-type: none"> ・ お金がかかる(20歳代女性) ・ 完全には完治しなかったこと。仕方が無いのかもしれないが、天候や気候によって痛みが再発する(20歳代男性) ・ 初めての全身麻酔だったので、説明を受けてもネガティブな説明の部分もありで不安が残った(50歳代男性)
小さな傷の手術 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・ まだ少し痛みがある(30歳代男性) ・ 医師の技術(40歳代男性) ・ 怪我をする前と比べ、治癒後は親指の動きが悪くなりました。腱の断裂は常に違和感(つっぱる感覚)が生じています(50歳代男性) ・ 今でも、たまに痛む。なんだか疲れやすくなっている(30歳代男性) ・ 治療はこれまでですと言われたこと(50歳代男性) ・ 手術後爪が変形して出てきた(60歳代男性) ・ 傷跡が気になる以外、不安・不快はなし(30歳代女性) ・ 症状があまり改善されなかったのが不快(40歳代女性)

6) 股関節

股関節の病気やケガにかかった患者が手術・処置時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-44 手術・処置時の不安・不快に関するコメント（股関節）

区分	コメント
大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ それまでずっと診断を受けていた先生と手術の担当医が違うことを手術4日前に入院した時に知らされた(30歳代女性) ・ わたし自身が看護師だが、看護師のレベルが低く、おいおい……と思うことを平気でしていた。普通は無料のものを有料にしていたり(ガーゼ代)、普通よりも料金を上乗せしていたりしていた(消毒1回800円近くかかるのは異常)(30歳代女性) ・ 靴下が自分で履けなくなった(40歳代女性) ・ 今後の不安、人工関節がどれくらい、耐久性があるか(50歳代女性) ・ 仕方のないことだけど、大きな傷跡が残っていることや、外観の違いが、自分の中で受け入れるまでに時間がかかりました。あと、手術後数年は杖歩行だったので、年齢的にも杖を使うということにとっても抵抗を感じ、周囲の視線などもとてもイヤでした(30歳代女性) ・ 治った訳ではなくて、今後も通院や手術が必要になることが不安。いつ再発するのか。管を入れる予定が入らなかったのも大丈夫かと心配。傷跡が突っ張る感じがするのは気になる(30歳代女性) ・ 手術したことで痛みはなくなったが直ったわけではないので生涯リハビリしながら股関節をいたわりながら無理をしないように生活する必要がある(50歳代女性) ・ 手術したのに痛みが残り、術前より悪化した(30歳代女性) ・ 手術しても痛みが変わらなかった(30歳代女性) ・ 手術のことなど聞きたくても主治医の先生が忙しく聞くことが出来なかった(30歳代女性) ・ 手術の時間が予想時間より大幅に長引いたので家族がすごく心配したこと(30歳代女性) ・ 手術より、その後の感染症や脱臼に対する不安が大きかった。それが解決しても稼働域の問題も残り不自由である(50歳代女性) ・ 手術を試してみれば、一番に痛みが無く、術後には思ったより不安は無くなっていたが、元のように歩けるか不安だった(60歳代女性) ・ 手術後リハビリの為に転院するのですが、オペ後数日でまだベッド上安静で全く動けないときに、いついっまでも転院しろと言われた。通常オペ後3週間～1ヶ月後で自力で動けない私に言われても答えられないと言ったら、このベッドはもう次の人が決まっているからダメだと言われた(30歳代女性) ・ 術後、生活が制限されるようになったし、人工関節の寿命がくれば、また入れ替え手術をしなければいけないので(30歳代男性) ・ 術後6か月くらいまで痛みが少しあったが、その後痛みはいつの間にか消えている。手術するまでずっと痛みを我慢していたので、たいそうな手術だったらしく、傷が大きいのが少し気になる。メンテナンスのため10年後頃にもう一度手術しなければならぬと聞いたが、そのまま置くことができないものか？(50歳代女性) ・ 術後に体をふいてくれるのは良いのだけれど、傷口を下に向けられて、いやというほど痛かった(50歳代女性) ・ 術後に点滴ミスがあった(40歳代女性) ・ 術前に十分な説明を受け、納得した上で痛みを取り除くために手術を受けました(人口股関節置換術)。今後今までどおりの生活をしていると、脱臼する可能性が高いので、洋風の生活をしなければならなくなり、とっさにしゃがんだりできないので、和式トイレが使えなくなりました(正座はできますがしないほうがいい)(50歳代女性) ・ 傷跡が思ったよりも残ったこと(30歳代女性) ・ 人工関節が何年持つか(50歳代男性) ・ 人工関節の将来の交換(40歳代男性) ・ 人工関節の説明が不十分(20歳代男性) ・ 挿入具除去のための再入院(40歳代女性) ・ 入院中、手術した傷口の回復が遅く、とても不安だった(50歳代女性) ・ 負荷のかかる作業に不安がある(30歳代女性) ・ 麻酔の失敗があり、腰椎に癒着が残る症状があり、足の痺れが残っている(30歳代女性) ・ 未婚なので傷跡が残るくらいに溶ける糸で縫ってもらったはずが傷口が全く消えなかった。以前のような痛みではないが、多少痛みが出ることもある。左右の足のバランスが違うように感じることもある(20歳代女性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔の影響(40歳代女性) ・ 名医がいて確実に直せるような話をしたあとで、再発やら感染症やらも説明され動揺した。痛みという点では軽減されたものの、つぎに再発したときが大変だと念を押された(30歳代男性)
小さな傷の手術 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・ はじめてのことだったので、その不安は大きかったと思うが、それはそれほどでもなく、術後の復帰までの日数や、生活のほうに不安だった。説明はされてはいたが、1度ですむものではなかったもので、それも不安だった(両足一度に出来ないから)(40歳代女性) ・ 事前にいろいろ調べていたので、特になかった(50歳代女性)